

Kawasaki

環境報告書

2001年版

100年の歴史を誇るKawasakiは、
20世紀を築いた「陸・海・空」にわたる先進技術を礎に、
21世紀の循環型社会の実現に貢献いたします。

 **川崎重工**

会社概要	2
“重”工業から“柔”工業へ	3-4
環境憲章	4
2000年度環境保全活動の総括	5-6
■ 第3次環境保全活動基本計画	5
■ 2000年度の実績	6
環境マネジメントシステム	7-8
■ 環境管理体制	7
■ 環境マネジメントシステムの運用状況	7
■ 環境監査	8
環境パフォーマンス(事業活動における環境改善)	9-14
■ 環境負荷の現状把握	9
エネルギーと資源	10
■ 省エネルギー活動	10
■ 資源投入量	10
大気・水質への環境負荷	11-12
■ 地球温暖化防止活動	11
■ オゾン層保護活動	11
■ 大気汚染防止活動	11
■ 水質汚濁防止活動	12
化学物質	12
■ PRTRへの取り組み	12
■ ダイオキシン、PCB対策	12
■ ストック汚染対策	12
その他の公害防止活動	12
廃棄物	13-14
■ 廃棄物減量化とリサイクル活動	13
■ ゼロエミッション活動	14
■ 社内廃棄物処理体制	14
製品・技術分野における地球環境問題への貢献	15-20
■ 地球環境問題に貢献する製品・技術分野	15-16
■ 製品・技術への体制および方針	17
■ 環境負荷低減へのアプローチ	17
■ 循環型社会の実現に貢献する製品・技術	18-20
環境コミュニケーション	21
■ 積極的な情報公開	21
■ 教育・社内啓発活動	21
社会貢献活動	22
■ JICA研修への協力	22
■ 地域社会への貢献活動	22
環境関連年表	22

環境報告書について

対象範囲

国内事業所(本社・事務所・研究所・支社・営業所・工場)を対象としています。海外事業所および関係会社は含みません。

対象期間

2000年度の環境保全活動についての報告です。記載内容は、2000年4月1日から2001年3月31日までのものです。環境報告書の発行が8月のため、2001年4月から6月までの内容も一部含まれます。今後も年度報告書として、毎年1回発行する予定です。

編集方針

2001年版の環境報告書は、環境庁(現環境省)の「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」に基づき、編集しました。

ガイドラインが示す記載内容は、1.事業概要などの基本的項目、2.環境保全に関する方針、目標及び実績等の総括、3.環境マネジメントに関する状況、4.環境負荷の低減に向けた取組の状況の4つに分類され、その中で環境報告書に必要と考えられる項目が18項目掲げられています。さらに各項目は「重要な記載内容」、「業態により重要となる記載内容」、「可能であれば記載することが望ましい内容」に区別されています。

当社ではこれらの項目に対応して正確な情報を公開し、イラストやグラフなど表現方法を工夫して、簡潔でわかりやすくお伝えできるように心がけました。また、多様なステークホルダーから求められる情報を、客観性を高めてご提供するために、株式会社クレーンの協力を得て企画・制作しました。

当社の環境保全に取り組む姿勢や活動について、ご理解いただけましたら幸いです。

お読みいただく前に

P5～6は環境保全活動を総括としてまとめ、P7～14に環境保全活動の体制や具体的な取り組みと実績について、P15～20は製品・技術分野における地球環境問題への貢献についてご紹介しています。また社会的な側面としてP21に情報公開、P22に環境に関連した社会貢献活動、関連年表をまとめました。

環境庁「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」について

近年、事業者には環境に関する情報を公開する社会的責務があるという考え方が広まり、環境報告書を通じてコミュニケーションを図ることの重要性が高まっています。そこでさまざまな立場のステークホルダーにとってより理解しやすい環境報告書を作成するにあたり、原則や記載する項目、内容を適切に示すガイドラインが必要となり、1997年6月に「環境報告書作成ガイドライン」が策定されました。その後国際的なガイドラインも参考にしつつ我が国の状況に適したものとして、新たに2000年度版がまとめられました。